

# 第11章-2 ヨーロッパの再編

## 1. 東方問題とロシア

自由主義・国民主義の影響でオスマン朝トルコの支配下諸民族の独立運動が活発化  
しかし自力で目的達成できず、列強の利害対立とからみ紛争続発

露 ……穀物輸出通路として、黒海から ボスフォラス・ダーダネルス 海峡の確保  
英 ……インドとの交通路の安全確保のため、トルコを従属下におこうとする  
仏 ……エジプト及びシリアを狙う

### (1). ギリシア独立戦争 (1821~30)

東方問題の最初…英・仏・露、ギリシアを援助 vs トルコ (前述)

### (2). エジプト・トルコ戦争

#### a). 第1次 (1831~33)

エジプト総督 (パシヤ) ムハンマド・アリー (1769-1849、マケドニア出身アルバニア人)

ナポレオンのエジプト遠征の混乱の中で勢力確立、

1805年、オスマン朝から自治権獲得し総督の地位を認定される

上記ギリシア独立戦争でオスマン朝を援助し、クレタ島・キプロス島を獲得するが不満

1831 さらにシリア獲得要求し対トルコ反乱、シリア占領

**英・仏・エジプト VS 露・トルコ**

1833 トルコ、エジプトによるシリア統治を承認し講和 (クタヒヤ条約)

しかしこの際、1833 ウンキヤル・スケレッシ 条約

トルコはダーダネルス海峡の独占航行権をロシアに与える

(露以外の軍艦に対して閉鎖)

⇔英の抗議

#### b). 第2次 (1839~40)

アリー、パシヤの地位世襲権主張 ⇔ トルコがエジプト攻撃、シリア出兵

**エジプト・仏 VS トルコ・英・露**

1840 ロンドン会議…エジプト、総督位世襲は承認されるがシリア放棄

※両海峡防衛はトルコの要求により共同で行い、第三国軍艦の通航禁止

=イギリス外相パーマストン(30-34,35-41,46-51)の勝利

### (3). クリミア 戦争 (1853-56)

原因…聖地管理権問題 (イエルサレムの管理権)

16世紀、スレイマン1世がフランスに同権保有認める

18世紀末、フランスは大革命で教会と対立

→ ロシア・エカチェリーナ2世がトルコに圧力をかけ獲得

1853年、ナポレオン3世がトルコに管理権要求し取得

⇕

ロシア…トルコ領内のギリシア正教徒保護を口実にモルダヴィア・ワラキア占領

⇔トルコ、対ロシア宣戦

1854 英・仏、トルコ側に参戦 (英婦人 ナイティンゲール =看護婦の鑑→赤十字運動へ)

1855 サルデーニャ もトルコ側に参戦 (イタリア統一のためナポレオン3世の歓心を買う)

1854-55 セヴァストーポリ 要塞攻防戦…ロシアの黒海における最大の軍港陥落

1856年 パリ 条約

両海峡と黒海の中立化…ロシアは黒海に軍艦を配備できなくなる

1859 モルダヴィア・ワラキア連合公国独立→ 1862 ルーマニア 公国

(=モルドヴァ)

#### (4). ロシアの改革

皇帝 アレクサンドル2世 (1855 ~ 81) ……クリミア戦争敗北で、近代化の必要性を痛感

1861年 農奴解放令  
人格的自由、しかし農地分与は有償 (プロイセン以上に農民に苛酷)

農奴 失地離村し賃金労働者に→産業革命  
土地買い戻しで債務負う→農奴に逆戻り…結局、農奴制は20世紀初まで続く

しかし、1863 ~ 64年 ポーランド 独立運動鎮圧後、再び専制強化



1870's ナロードニキ (人民主義者, Narodniki) の運動  
学生など都市の知識人階級 (インテリゲンツィア) 中心  
「人民の中へ, (V narod、ヴ・ナロード)」をスローガンに  
ミール (=賦課に対して連帯責任を負う農村共同体) を基礎にした  
社会主義実現図るが、農民の理解・支持を得られず挫折



政治的なニヒリズム (虚無主義) ……テロリズム (暴力主義) で政府打倒めざす  
1881年、アレクサンドル2世暗殺 etc.

.....

#### (5). 露土 戦争 (1877-78)

ロシア…国内不安をかかえながらも南進策強化

- '71 フランスのナポレオン3世没落を機に黒海中立条項破棄  
バルカン地方のスラヴ民族主義 (汎スラヴ主義) 利用
- '75 ボスニア・ヘルツェゴヴィナで、キリスト教徒の対トルコ反乱
- '76 ブルガリア、セルビアにも波及



1877. 4 露土戦争…ロシア、これらを支援しトルコを破る



1878. 3 サン・ステファノ 条約  
ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立承認  
ブルガリア…領土拡大、トルコ領内自治国としてロシア保護下に  
(→ロシアはブルガリア領のエーゲ海岸利用可能に)

ロシアの地中海進出 ⇔ イギリス、オーストリア (自国領内の汎スラヴ主義警戒) の抗議

1878. 6-7 ベルリン 会議  
ビスマルクの調停 = 「忠実な仲買人」  
(しかし実はディズレイリと結託←ヨーロッパ現状維持のため)

キプロス島…英領 ブルガリア…領土縮小 (エーゲ海岸を失う) →ロシア南進阻止 ルーマニア、セルビア、モンテネグロ…独立確定 ボスニア・ヘルツェゴヴィナ両州…トルコの名目的主権、奥の支配下
---

※トルコ解体の第一歩…「瀕死の病人」の「遺産分割」

バルカン半島 = 「ヨーロッパの火薬庫」 → WW I へ  
汎ゲルマン主義 (独奥) VS 汎スラヴ主義 (露)

## 2. イタリア統一

1848年の失敗後、統一運動の中心は サルデーニャ 王国

首都 トリノ、領土はサルデーニャ島&ピエモンテ地方

イタリアにおける産業革命の中心、修道院解体・教会勢力排除

国王 ヴィットリオ・エマヌエーレ2世 (1849～78、カルロ=アルベルトの子)

首相 カヴール (任1852～61死)

イタリア統一に列強の支持を得るため クリミア 戦争に参加

↓

1858年 プロンビエールの密約……仏ナポレオン3世の支援とりつける

1859年 イタリア統一戦争……サルデーニャ・フランス VS オーストリア

↑↓

しかしヴィラフランカの和約=ナポレオン3世の裏切り

仏は奥と単独講和、サルデーニャも調印余儀なくされる

サルディニアは奥から ロンバルディア 獲得したのみ

1860年 サルデーニャ、外交手段で中部イタリアを占領・併合

(トスカナ、パルマ、モデナ3公国、君主はいずれも統一戦争で国外亡命)

↓

フランスに サヴォイア、ニース を割譲してこれを承認される

(プロンビエール密約による既定方針)

同年 愛国者 ガリバルディ、赤シャツ隊を率いて 両シチリア 王国を占領

→ サルデーニャ王と会見し、占領地を献上

1861年2月 イタリア王国成立

首都トリノ、国王ヴィットリオ=エマヌエーレ2世

(6月6日、カヴール首相死)

その後

1866年 普墺 戦争……プロイセンと同盟し、奥から ヴェネツィア 獲得

1870年 普仏 戦争……教皇領を防衛するフランス軍が本国防衛に引揚げた際に

教皇領 併合、翌年 ローマ 遷都

↑↓

※ローマ教皇ピウス9世、イタリア王破門、『ヴァティカンの囚人』宣言

教皇庁、王国と国交断絶 (～1929ラテラノ条約、ムッソリーニ)

※まだ、ティロル、トリエステ が『未回収のイタリア (Italia irredenta)』

オーストリア領のまま→1919年、WW I 後併合

<地図>

### 3. ドイツ統一

1849年の失敗後、プロイセン王国中心・オーストリア排除（小ドイツ主義）の統一へ

国王 ヴィルヘルム1世（1861～88）

首相 ビスマルク（1862～90）……ユンカー（土地貴族）出身

1862 就任演説で『鉄血政策』表明

1864年 シュレスヴィヒ・ホルシュタイン 戦争

デンマーク南部2州のドイツ人の自治権擁護を口実に

オーストリアと共同で、この2州を占領

→その管理権をめぐるオーストリアと対立

↓

1866年 普墺戦争……プロイセンの圧勝

↓

1867年 { オーストリアは単独で オーストリア・ハンガリー帝国 結成

マジャール人に自治国家ハンガリー王国建設を認め

オーストリア皇帝がハンガリー国王を兼ねる

プロイセン中心に 北ドイツ連邦 結成

⇒カトリックの南ドイツは参加せず

※ドイツ・フランスの対立……スペイン王位継承問題（1868年の革命以来空位）

1870年6月 スペイン王候補者に、ホーエンツォレルン家支流のレオポルトが浮上

7/12 フランスが猛烈に反対し撤回

7/13 エムス電報事件

フランスは大使をヴィルヘルム1世の保養先エムスに派遣し

将来にわたってのレオポルト不即位の保証をもとめる

↓

ヴィルヘルム1世は、これを拒絶した旨ベルリンに打電

ビスマルクは電文を、仏大使が国王を脅迫したように脚色し新聞公表

↓

1870年7/18～ 普仏戦争（～71.5）

フランスがプロイセンに宣戦、しかしドイツ諸邦連合軍の連戦連勝

9/2 ナポレオン3世、スタダンにて降伏 → 9/4 仏国防政府の共和政宣言

9/15 ドイツ軍、パリ包囲（～71.1/28）

戦争による国民意識が南ドイツ民衆も巻き込み、全ドイツ統一へ

↓

1871年1月18日 ドイツ帝国 成立

ヴィルヘルム1世、ヴェルサイユ宮殿においてドイツ皇帝として戴冠

- ・連邦制国家……22君主国&3自由都市（リューベック、ハンブルク、ブレーメン）
- ・プロイセン王国中心  
プロイセン王＝ドイツ皇帝（Kaiser）、プロイセン首相＝帝国宰相  
帝国官職はプロイセンのユンカー独占、帝国軍統帥権はドイツ皇帝に
- ・立法府  
連邦参議院＝各邦代表（プロイセンが最多議席）  
帝国議会＝男子普通選挙、しかし重要問題決定権なし

## <ビスマルク時代>

### ◎内政

- (1). 文化闘争 (Kultur Kampf) ……カトリック勢力の非開化主義に対する闘争  
南ドイツのカトリック勢力が教皇ピウス9世と結託  
1870年 中央党結成……ルター派のプロイセン・ビスマルクに対抗  
⇕  
ビスマルク……様々な法令により、カトリックの政治介入を抑圧  
(五月法=1873-75の各5月に制定された法令の総称)  
→しかし、社会主義勢力を抑えるために中央党の支持必要  
78年、ピウス9世死後、関係法令撤廃

(2). 対社会主義政策

※ドイツの社会主義運動

- |   |  |                              |
|---|--|------------------------------|
| { | ラサール (1825-64)                               | マルクスとは別に独自でヘーゲル哲学から社会主義思想に到達 |
|   |  | 1863年、全ドイツ労働者同盟設立            |
|   | ベーベル (1840-1913)、W・リープクネヒト (1826-1900、カールの父) | マルクスの弟子                      |
|   |  | 1869年、社会民主労働党結成 (於アイゼナハ)     |

→ 1875年 ドイツ社会主義労働者党結成

ゴータ綱領の採択=ラサール派とアイゼナハ派の合同

⇕

ビスマルク……「アメとムチ」政策

1878 社会主義者鎮圧法……社会主義労働者党の非合法化

1883 労働者傷病老廃保険法……社会保障制度の草分け→各国のモデルに

(3). 経済政策

はじめ自由貿易だったが、73年のウィーン証券取引所の暴落を機に変化

1879 保護関税法

→企業の集中進行、ドイツではカルテルの形態が多い

### ◎外交

ビスマルク外交の原則

- ①. フランスの孤立化 (対ドイツ復讐防止)
- ②. ヨーロッパの現状維持 (特にバルカン半島)  
→平和維持外交、よって帝国主義化が遅れる  
(ドイツは十分な領土がある。その繁栄には平和が必要。)

1873 三帝同盟 (独・オーストリア・ロシア)

1878 ベルリン 会議……英とは関係好転、しかし露とは悪化 (←1877露土戦争)

1879 独墺同盟 (~1918) ……対ロシアで協力、パン=ゲルマン主義

1881 新三帝同盟 (1884更新)

1882 三国同盟 (独・オーストリア・イタリア)

81 フランスがチュニジアを保護国化したことに反感をもつイタリアと結ぶ。

ただし、イタリア・オーストリア間には「未回収のイタリア」問題あり

→WWI中の1915年イタリア離脱

1887 独露再保障条約 ……ロシアとフランスの接近は絶対防止する必要

独墺同盟を公表し、なおかつオーストリアに秘密で両国の好意的中立を約す

※ドイツの安全を図るための複雑な外交関係……ビスマルク体制

## 4. フランス第3共和政とイギリス2大政党時代

### <フランス第3共和政>

普仏戦争

- 1870.9/2 ナポレオン3世降伏
- .9/4 国防政府による共和政宣言
- .9/15 ~ ドイツ軍によるパリ包囲
- 1871.1/28 パリ開城、停戦協定
- .2/12 臨時政府発足、行政長官 ティエール
- .2/26 ヴェルサイユ仮条約
  - 5/10 フランクフルト講和条約
  - アルザス、ロレーヌ 両州割譲 (ドーデ『最後の授業』)
  - 50億フランの賠償金支払

⇕

パリ市民、講和条約に反発

↓

- 1871.3/18 ~ 5/28 パリ・コミュン (Commune de Paris)
- 全市民の選挙により、史上初の労働者自治政府成立

⇕

ティエール政府は、ドイツ軍の援助により、これを圧殺

1875 第3共和憲法成立……しかし、小党分立で連立政権つき政情不安定

### <イギリス2大政党時代>

☆ ヴィクトリア 女王 (1819 生、位 1837 ~ 1901)

1851年、62年の2回にわたり万国博覧会開催  
(⇔これに対抗してナポレオン3世も'55,'67の2回開催)

◇ 二大政党 時代……第1次選挙法改正後、大衆政党化

自由 党 (旧ウィッグ党) VS 保守 党 (旧トーリー党)

・保守党 ディズレイリ (1804-81)

1867 第2回選挙法改正 ……ダービー内閣蔵相の時、改正案提出  
都市の労働者に選挙権付与

1868.2-12 月 第1次内閣組織 (特記事項なし)

・自由党 グラッドストーン (1809-81)

1868 ~ 74 第1次内閣組織……多くの改革実行

1870 国民義務教育法……公立学校設立

1871 労働組合法

1871 投票法……無記名秘密投票制度

※アイルランド問題

1870 アイルランド土地法 (以後も同名の法律が数度成立)

イギリス人不在地主に対するアイルランド人小作人の小作権安定策など  
しかしあまり効果なし

・保守党、第2次ディズレイリ内閣 (1874-80) …… 帝国主義 政策推進

1875 スエズ 運河株式買収

1877 英領インド帝国成立

その他、アジア・アフリカ地域に植民地拡大めざす

・自由党、第2次グラッドストーン内閣 (1880-85)

1884 第3回選挙法改正 ……農業労働者・鉱山労働者に選挙権

# 第11章-3 アメリカ合衆国の発展

## <経済的独立と領土拡大>

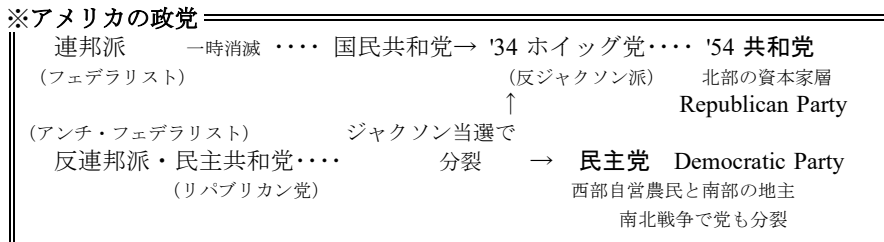
第3代 ジェファソン (1801-09) ……反連邦派 (州権主義) の指導者  
 “1800年の革命 (選挙による政権交代)”

1803年 ミシシッピ以西のルイジアナをフランスから買収  
 領土拡大の歴史については地図参照  
 ※ 13州以外の地を“西部”という  
 これらの地域は成人男子5千人で‘准州’  
 准州の総人口が6万人で‘州’に昇格し  
 13州と同格でUSAの一員になる

第4代マディソン (1809-17)  
 フランス革命・ナポレオン戦争において中立、貿易で利益 ⇔ イギリスの通商妨害  
 ↓  
 1812-14 米英 戦争…イギリスからの経済的独立、産業革命開始

第5代 モンロー (1817-25)  
 1823年 モンロー 宣言 (教書) ……ウィーン体制の米大陸への波及阻止  
 両大陸の相互不干渉 → 以後、合衆国の外交の基本に

第7代 ジャクソン (1829-37) ……初の西部開拓民出身の大統領 (民主党)  
 “ジャクソニアン・デモクラシー”  
 白人男子普通選挙、義務教育制度  
 獵官制度 (スポイルズ・システム) ……政権交代毎に全ての公務員が交替  
 小農民・小市民の立場から、金融独占反対などの政策



※ 1830 インディアン強制移住法  
 先住民 (アメリカン=インディアン) の土地を奪い「居留地」に隔離

※ フロンティア (境界=開拓最前線、州に未昇格の地域)  
 先住民を圧迫。その犠牲の上で、自主独立の精神をはぐくむ。  
 「マニフェスト・ディスティニー (明白な天命) と称して正当化

※テキサス&カリフォルニア  
 1836 メキシコ領テキサスでアメリカ系移民反乱  
 1845 テキサスを州として併合  
 ↓  
 1846~48 アメリカ・メキシコ (米墨) 戦争…アメリカの完勝、カリフォルニア獲得  
 ↓  
 “ゴールド・ラッシュ” ……カリフォルニアで金鉱発見  
 『フォーティナイナーズ』が殺到、'50州昇格→大陸横断鉄道が必要に

## <南北戦争 The Civil War>

### ◆原因

南北の産業構造の違い

- 南部……黒人奴隷を使用し、綿花の大農場経営（←ホイットニー発明の綿繰機で発展）  
イギリスの綿工業に原料供給  
州権主義・自由貿易主義・奴隷制存続 = 民主党
- 北部……工業発展途上にあり、イギリスに対抗する必要  
中央集権主義・保護貿易主義・奴隷制廃止（自由な労働力が欲しい）

新たに昇格した州を「自由州」にするか「奴隷州」にするか、で頻繁に対立

1820 ミズーリ 協定

ミズーリ州を奴隷州とするかわりに、  
以後北緯36度30分以北には奴隷州を作らない、とする

1854 カンザス・ネブラスカ 法

両州が奴隷州・自由州のいずれになるかは住民が決める  
→ミズーリ協定に反する内容

同年 共和党 成立

北部資本家らが奴隷制廃止をスローガンに結成  
（自由な労働力を確保する目的から）

※ 1852年、ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』出版、奴隷制廃止の機運

ただしその内容は生ぬるいヒューマニズムでしかない、という批判も多く、1960年代公民権運動の時代以後は、「アンクル・トム」は「白人におもねる黒人」という意味に使われることが多い。

### ◆戦争

1860 第16代 リンカン 当選（共和党、'61.3 就任、'64 北部のみの選挙で再選、'65.4 暗殺）

↓

1861. 2月 南部 11州が アメリカ連合（Confederate States of America）結成  
大統領 ジェファソン・デイヴィス、首都 リッチモンド

↓

1861. 4月～'65 南北戦争 開戦……はじめ南部優勢  
北軍 グラント 将軍 VS 南軍 リー 将軍

### ◆リンカンの政策

1862 ホームステッド 法 (65ha)  
公有地で5年間定住し開墾した者に土地 160エーカーを無償給与  
西部自由農民が北部支持へ

1863. 1月 奴隷解放宣言  
内外世論の支持、さらに南部奴隷の蜂起も期待

同年. 7月 ゲティスバーグ の戦い……最大の激戦地、北部の勝利決定的に  
→同年11月、この地での戦没者追悼記念のリンカン演説

1865. 4/9 リッチモンド陥落、南軍降伏で終戦  
4/14 リンカン狙撃、翌日死去

### ◆戦後

アメリカの経済的統一……資本主義経済の全国的展開、1869 最初の 大陸横断鉄道 開通

黒人問題……憲法修正第13条（'65、奴隷制廃止）、  
第14条（'68、黒人に公民権付与）、第15条（'70、黒人に選挙権付与）

↓

しかし州法その他での差別存続  
民間レベルでの差別は激化…… KKK（Ku Klux Klan、'65 結成）  
経済的自立は困難…… シェアロッパー（分益小作人）制度  
黒人小作人に細分した土地を貸与し収穫の1/2～1/3を地主がとる